

(6) 東海



東海地域では、景気は新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるが、このところ持ち直しの動きがみられる。

- ・ 鉱工業生産は一部に持ち直しの動きがみられる。
- ・ 個人消費はこのところ持ち直している。
- ・ 雇用情勢は感染症の影響により、弱い動きとなっている。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方に変更、 は下方に変更)。

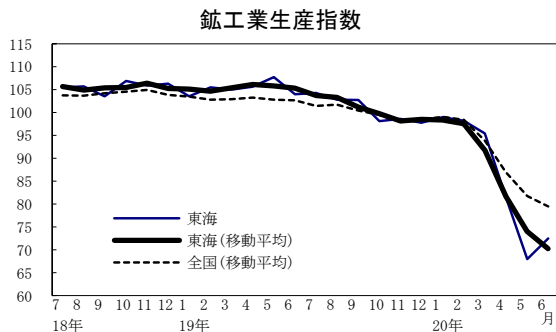
前回からの主要変更点

	前回 (令和2年5月)	今回 (令和2年9月)	
景況判断	新型コロナウイルス感染症の影響により、急速に悪化しており、極めて厳しい状況にある	新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるが、このところ持ち直しの動きがみられる	↑
鉱工業生産	新型コロナウイルス感染症の影響により、急速に減少している	一部に持ち直しの動きがみられる	↑
個人消費	新型コロナウイルス感染症の影響により、急速に減少している	このところ持ち直している	↑
雇用情勢	新型コロナウイルス感染症の影響により、弱さが増している	感染症の影響により、弱い動きとなっている	→

1. 鉱工業生産の動向

鉱工業生産は一部に持ち直しの動きがみられる。

4－6月期には、「輸送機械」は、乗用車、自動車部品等が減少したことから、減少した。「電子デバ、電気・情報通信」は、内燃機関電装品等が減少したことから、減少した。「石油・石炭製品、化学、プラ製品」は、減少した。「汎・生産・業務用機械」は、金属工作機械等が減少したことから、減少した。「鉄鋼業、非鉄金属、金属製品」は、減少した。



- (備考) 1. 2015年=100、季節調整値。東海の最新月は速報値。
 2. 全国及び東海の太線は中心3か月移動平均。
 直近月は2か月平均。
 3. 東海は内閣府にて算出。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		1－3 月期	4－6 月期	4月	5月	6月
輸送機械	40.1	▲0.0	▲39.5	▲26.5	▲29.4	17.6
電子デバ、電気・情報通信	13.3	0.9	▲11.4	▲4.6	▲12.1	3.9
石油・石炭、化学、プラ製品	13.0	▲2.0	▲10.9	▲5.3	▲7.8	3.4
汎・生産・業務用機械	11.2	▲4.6	▲11.3	▲3.8	▲7.4	▲0.3
鉄鋼業、非鉄金属、金属製品	6.4	▲0.6	▲26.2	▲15.6	▲16.3	1.4
鉱工業	100.0	▲0.6	▲24.1	▲14.5	▲16.7	6.6

- (備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。
 2. 4－6月期、6月は速報値。
 3. 業種は内閣府にて分類。

2. 個人消費の動向

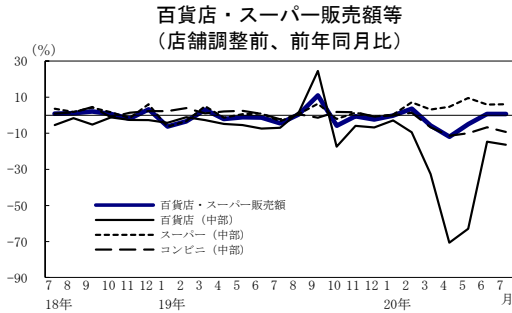
個人消費はこのところ持ち直している。

(1) 地域別消費総合指数（RDEI（消費））

4月は前月比6.9%減、5月は同2.5%減、6月は同7.5%増となった。

(2) 百貨店・スーパー販売額

緊急事態宣言等に伴う休業や営業時間の短縮が実施されるなか、4月は前年同月比11.9%減、5月は同5.0%減となった。6月は、緊急事態宣言解除に伴う営業再開等により、同0.8%増となった。7月は同0.7%増となった。



	2020年4-6月	2020年4月	5月	6月	7月
RDEI (消費*1)	▲12.0	▲6.9	▲2.5	7.5	—
百貨店・スパー(*2)	▲5.3	▲11.9	▲5.0	0.8	0.7
百貨店(*3)	▲48.7	▲70.7	▲62.9	▲14.7	▲16.3
スーパー(*3)	6.7	4.7	9.5	5.9	6.1
コンビニ(*3)	▲9.3	▲11.4	▲10.0	▲6.6	▲9.2
乗用車(*4)	▲33.9	▲30.8	▲47.7	▲24.3	▲15.1
(季節調整値) (*4)	▲20.7	▲14.6	▲22.3	30.2	22.2

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

百貨店・スーパーは内閣府にて算出。

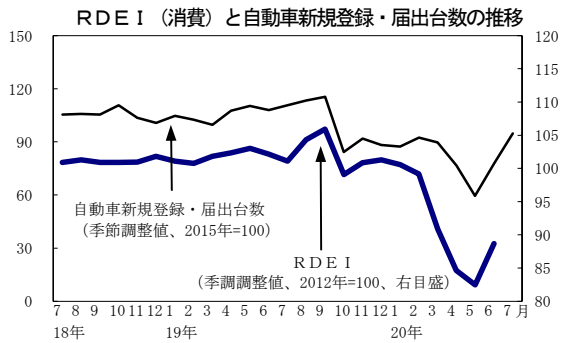
2020年7月は速報値。

3. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

百貨店、スーパー及びコンビニは、経済産業省の中部(富山、石川、岐阜、愛知、三重)の値。

2020年7月は速報値。

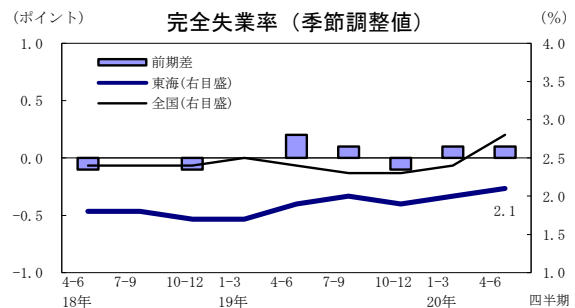
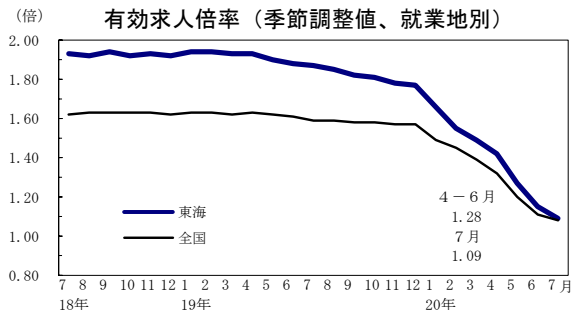
4. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比 (%))



3. 雇用情勢

雇用情勢は感染症の影響により、弱い動きとなっている。

有効求人倍率は低下している。完全失業率は前期を上回っている。



(13) 景気ウォッチャー調査 (令和2年7月調査) 景気判断理由の概要

6. 東海

(良、 やや良、 不変、 やや悪、 ×悪)

分野		判断	判断の理由
現状	家計 動向 関連		・新型コロナウイルス禍で部屋探しの客が例年に比べて約30%減になっている。4月は緊急事態宣言下だったため比較すれば当然良いが、到底景気が上向きとは感じられない (その他住宅 [不動産賃貸及び売買])
			・新型コロナウイルスの影響が大きい。イベント、旅行等も中止となり出掛けることが少なく、美容院に来店する予定もキャンセルになる場合も多い (美容室)
			・4~5月の頃から比べると、確実に購入目的の客の来店が増え、販売台数も増えている (乗用車販売店)
	企業 動向 関連		・新型コロナウイルス禍で人の動きをまだまだ制限されている間は、身近な個人消費やサービス業全体で回復しない。感染リスクを抱えたままで世の中の気持ちが高揚しないうちは、景気は悪いままである (通信業)
		×	・新型コロナウイルスの影響で需要も縮小しているが、それ以上に生産が落ち込んでいる。生産は持ち直してきているが、今度は需要の落ち込みが懸念される (電気機械器具製造業)
雇用 関連		・非正規労働者を中心に雇止めが多く、求人広告は全く出稿されなくなった (新聞社 [求人広告])	
	×	・新型コロナウイルス第2波の動きから、企業のテレワークの再開と求人数の落ち込みがみられる (人材派遣会社)	
その他の特徴 コメント			: 3か月前に比べれば、最悪期は脱しつつある。個人への10万円の給付金等、政府のばらまき施策が効いて、単価の高いエアコンやパソコンが売れている。ただし、7月に入り天候不順もあり前年超えは微妙である (家電量販店) : 3か月前はほとんど来客数がなかった状態である。緊急事態宣言が解除されて7月になり、県主催のキャンペーンで1泊5000円の助成等が効果的に作用し、最悪期は脱出した。宿泊者数はやや良くなっている (観光型ホテル)
分野		判断	判断の理由
先行き	家計 動向 関連		・新型コロナウイルスの第2波が来ており、外食を控えているためか食品の売上が良く、このままの状況が続くと見込まれる (スーパー)
			・緊急事態宣言が解除されてちょうど2か月であるが、売上も最悪の4~5月頃と比較すると倍になった。しかし、この1週間の感染拡大で客が夜の飲食をしなくなり、前に戻ってしまうのではないかと懸念する (タクシー運転手)
	企業 動向 関連		・世界中でノーマルな活動に戻らない限り、物流量は元に戻らない (輸送業)
			・当面はこの状況が続くことが予測され、回復には更に時間が掛かると思われる (食品製造業)
	雇用 関連		・会社都合の離職者が増加してきているので、まだまだ厳しい状況が続く (職業安定所)
その他の特徴 コメント			: 例年なら秋の商戦に向けて様々なイベントの準備等が始まる時期だが、今年は新型コロナウイルス感染拡大のため延期や中止になりそうな案件が多い (広告代理店) × : 新型コロナウイルス第2波が完全にやってきた今、Go To Travelキャンペーン等で申込みを頂いた旅行予約や静観中だった秋口の団体旅行も軒並み再取消しが発生している。4~5月の前年比マイナス97%に匹敵する減少率が旅行業界に再び襲ってくるのは必至である。観光業界の景気が戻る気配は全くない (旅行代理店)

(D I) 現状・先行き判断D I (東海)の推移 (季節調整値)

